

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立清水小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 松下 幸司

学校教育目標

学校経営の方針

自ら学び豊かな心とたくましく生きる力を持った児童の育成

- 多様性を認め合い、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を図るとともに、地域との協働による教育活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献する。
- SDGsの取り組みを通して、持続可能な社会の担い手としての自覚や資質を育む。

今年度の重点目標

- 【学ぶ力の育成】 新たな教育課題を踏まえ魅力ある教育課程を実施し、主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上をめざす。
- 【実践力の育成】 互いのよさや可能性を發揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、自ら考え行動する力の育成をめざす。
- 【豊かな心の育成】 自他の命を大切に、互いのよさを認め合う心情を育て、居心地よい学級づくりに努める。
- 【安心安全・健やかな体】 学校教育環境を整えるとともに、命を大切に、安心・安全な社会の担い手としての素地を培う。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
児童は、学校に行くのを楽しみにしているか。	1・2・3	・不登校傾向のある児童・家庭への早期の対応 ・安定したクラス経営・授業づくり	90%の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。ただそうではない児童・家庭もあり、細かな対応をしていきたい。リソースルーム等の活用など支援体制の充実を図りたい。	コーディネーターや児童指導と学年、担任が連携を図りながら、継続して対応を進めていく。
児童は、あいさつを自分から進んでしているか。	2・3	・継続した児童会等の取組	30%の保護者から「そう思わない・あまりそう思わない」という回答をいただいた。児童会主体の挨拶運動をきっかけに挨拶ができる児童が増えてきているが、「自分から進んで」という視点では物足りなさを感じることもある。	児童会活動に頼らず、クラスでも、あいさつの大切さ、あいさつの仕方等を指導していく。
児童は、学校の勉強をよく理解しているか。	1	・校内研究を通じ、児童の実態に即した授業実践を重ねる	「そう思う」より「大体そう思う」の割合が高く、しっかり学習内容を把握しているかどうかは疑問が残る。高学年に進級してくると、算数の難しさを感じている児童も多い。基礎基本の力が身につくような授業改善、家庭学習の仕方など、取り組んでいきたい。しっかりと家庭学習の習慣は身につくにつつあるが、学年に応じた時間、学習に向かうことが必要である。	手引きを配付するだけでなく、学習の仕方等学び方について、学校でも指導し、家庭との連携を図っていく。
児童は、周りの人や友だちとうまくコミュニケーションをとったり、協力したりしていますか。	1・2・3	・個別に応じた丁寧な対応指導の励行 ・行事や活動をコミュニケーションの場ととらえて指導を進める	90%の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。友だち関係が良好な児童が多い反面、コミュニケーションで苦戦をしている児童もいる。少数での活動の時間を増やしたり、ソーシャルスキルに焦点をあてた友だちとの関わり方を学ぶ活動を増やしたりすることで、より良い友だち関係を築き、楽しい学校生活が過ごせるように取り組ませたい。	うまく交友関係を築くことができない児童のみに対してではなく、学級経営の一端として友だちの関わり方について考える時間を確保し、その都度、指導していく。
児童は、いじめや暴力などの心配のない安心な学校生活を送っていますか。	2・3	・人権週間やISS活動の取組を通じて互いの人権を尊重したり、思いやりの気持ちを育てたりする指導を進める	9割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。人権週間やISSの活動とタイアップして、「いのちの授業」「ハッピー絵文字キャンペーン」など様々な活動をしてきた成果が表れている。	継続して、「生活アンケート」「学校づくりアンケート」を行い、児童の実態を捉えるために担任との面談を実施し、一人ひとりに組織的に対応して悩みや困りごとにアプローチしていく。

学校は、教育活動を充実させるための組織的な体制を整え、機能させているか。	2・3	・教育活動を支えていただく様々な立場の方を紹介し、組織的に対応することを旨す	8割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。学年問わず、各学年の教員、専科担当教員、様々な立場の教職員がチームとなって、授業改善、児童指導、児童支援などにあたっての成果があらわれてきている。	現状の体制を維持しながら、スクールカウンセラー、こころスマイル支援員、学カステップアップ支援員など、児童のサポートをしている方々との連携も確実に図っていく。
教職員は、保護者や地域の方々と積極的に関わり、連携を図ろうとしているか。	2・3	・様々な意見を聞く体制を整え、連携を図り、組織的に対応していく	90%以上の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という肯定的な回答をいただいている。担任や担当が窓口になり、組織的に関わることで定着してきた成果だと感じている。現状に満足せず、相談しやすい、つながりやすい関係づくりを進めていきたい。	保護者や地域の方々の意見を聞き、連携を図りつつ、教育活動に反映しながら取り組んでいく。
学校・PTA・地域は、通学班での登校や「かけこみポイント設置」、下校時の見守り等で、子どもの登下校の安全を確保するように努力しているか。	2・3	・PTA・地域の見守り隊と連携を図り登下校の安全を見守る ・地域の危険個所を、引き渡し訓練で確認をする	好意的な意見をいただく保護者の方が多い。見守り隊の方が児童のために助けていただくことで、安全に登下校することができている。	次年度から、個別登校に切り替わることになる。地域とPTA、学校が連携を図りながら、登下校の安全確保、学区の危険個所を確認しながら進めていきたい。登下校は保護者の責任のもとで行うことを再確認し、安全指導は、機会を捉えてすすめていきたいと考えている。
ISS(安心・安全な学校)認証校として、校内の安心・安全教育及び対策や自転車のヘルメットの着用・防犯ブザーの携帯率の向上等、取組は充実しているか。	2・3	・ヘルメット・防犯ブザーの携行率向上の取組 ・通学班指導・交通安全教室・避難訓練等の励行	これまでのISS活動に加えて、6年生が中心となり様々なアイデアで活動を展開することで、安心安全な学校地域づくりが進んできた。また、安全教育では、下校指導・避難訓練・防犯教室・引き渡し訓練など実施し、多面的な指導を行うことができた。	6回目のISS認証を受けることにより、これまでの良い取組に加え、今の児童の実態から活動をアップデートさせながら、児童に寄り添う活動を地域、保護者と連携を図りながら進めていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
児童の挨拶ができていないと感じている保護者が多いということが気になる。挨拶ができるように学校や家庭で引き続き声をかけてほしい。ISSの認証に向けて取り組んでいる安心安全な学校づくりの活動が定着している。通学班が来年度からなくなるということだが、これまで守られた交通ルールや、上学年が下学年の面倒をみるという良さは継続してやってほしい。				
今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針				
今年度、学校経営として、保護者、児童から概ね好意的な評価をいただくことができた。ISS認証の年になったが、「安心安全な学校づくり」は学校文化として、今後も無理のない範囲で取り組んでいきたい。継続して取り組む活動のほか、新たな取組として今年度児童から提案され実践してきた活動(心の安心安全・人権週間等)へも目を向け取り組んでいきたい。				